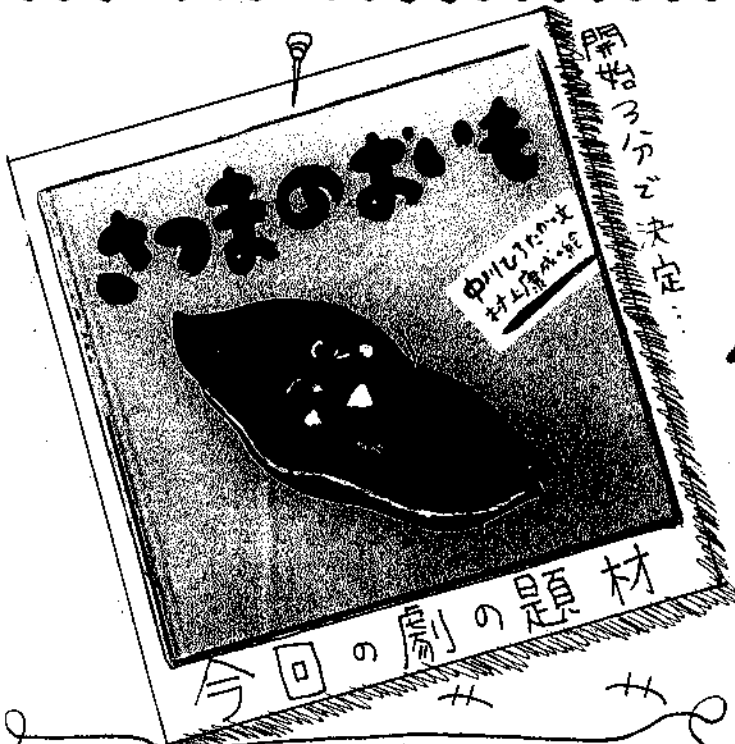


ずくぼんじゅ



発行第248回 R.5.2.20 広報委員会 小金原保育の会 幼児教室

くらみえん



お楽しみ会

～3年ぶり、母たちの劇～ でこわす!!

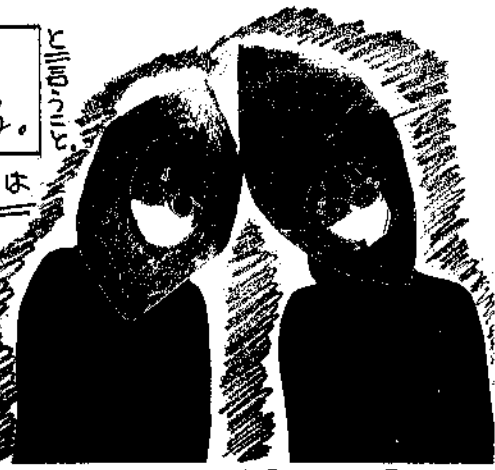
先生 → 今回はやりたいお母さん達だけで出しものをやりましょう
参加した方は、最後までお楽しみ会の参観がごきまよ～

母たち → えーッッ

そう...おまかせ



心を捨てて演じたい特典として、子ども達の反心もあがり、先生の演劇観覧の場ができる。
正直迷った母も多かったのは、しかし実際祭はお楽しみ会経験者が私を含めて3名しか居なかったにも関わらず有志が集まるとこにもスムーズで活気があるのか...!と少ない回数集まりましたが、毎回学ぶだけでした。全員に感想をいただきましたが、今回はこの方のお三方にお願いしました。うせき組 川茂田



人前で何かするのは苦手な私ですが、子供達が楽しんでいる顔が見たい欲求が勝ち、参加しました。お母さん方が作る脚本や小道具のクオリティの高さに驚かされたり、アイデアを出し合っの練習は、私にとってとても刺激的な時間でした。お楽しみ会当日は緊張しましたが、予想以上の笑い声と笑顔が見られて最高に楽しかったです。もも組 板橋

【おいも径でした】
ももごみ 永田
子供達が喜び姿を思い浮かべ、アイデアを出し合い作りあげた劇でした。色々な事を得意とする母達がいて、出来る事を出来る人が自然と担当、準備段階から当日まで楽しかった! ありがとうございます。

以前、参加した時の子ども達の反心がたれられず、今回も参加させてもらいました。打ち合わせでは全員が集まることにはあはせんでは、が、不思議と一休感があり、どんどんアイデアが生まれ、それぞれの得意分野を生かして、あ、という間に準備が進んでいった。迎えた当日、私はレター役なので子ども達の先回りよく見えるのですが、みんな自分や友達の親御さんということもあって、バツリするほどよく集中して見ているのがわかりました。一休セリフや動きがあるのに、子ども達の感情がぐくると変わり、楽しんでくれているのを本当にやてよかったです。清く正しくお楽しみ会になりました。

笑班



子班

可愛い可愛い
2世、2人参加♡

先生役&レター役
子班1組10名が参加した

おさらい② くるみえん

『学びの場』としてのくるみえん編



前回のすぐくみえんは
くるみえんの規約を
一部抜粋して紹介
しました。こちら▶

小金原幼児保育の会 幼児教室 規約第一編 後編より。
2条 目的
(2) 子どもも大人も、ともに人間として豊かに成長できるよう学ぶ場とする。
3条 方針
(2) 幼児教室のあり方を父母またはそれに代わる保護者と、保育者が学習し、保育の場へ反映する。

今回はこの部分についてより具体的に記された以下の部分が
テーマとなります。

次の活動は担当する専門委員会で行う。[くるみえん規約 40条(4)より]
学習活動
① より良い子育てを考える中で、母親として豊かな人間に成長できるよう、学習会を行い学ぶ。
② 子どもをとりまく環境について話し合い、考える。

①「担当する専門委員会」は以前から色々な名前を活動
しておりました。代表的なものを紹介します。

文化委員会 (1992-2002)  

役割 [H14 総会議案書より]
1 より良い子育てを考える中で母親として、豊かな人間に成長できるよう学習会や話し合いの場を設ける。
2 会員の文化的活動を支援する。
3 幼児教室とサークルのパイプ役となり、話し合いの場を設ける。

**虫おぼえ
イモリ**
**講演会
企画**

学習委員会 (2011-2016) → 2022復活!!

②に重きをおいた**環境委員会**もありました。(2003-2012)

役割 [H23 総会議案書より]
子どもの遊びの環境を考え、整備する。

**保育に使うおもちゃ等の
補修など**

ときにはクラス委員会や役員会もその役割を手伝い、
委員会と名前が異なる前は「学習部」「文化部」という名前が
活動し、学びの場は作られてきました。

くるみえんだけでなく、根木内小PTAも賛同してくれた自治会
の人等と一緒に地域ぐるみで「子育て」について学んだ時代
もありました。

大学教授や
児童女学者、
小学校の先生等を
招いて学習会が
行われました

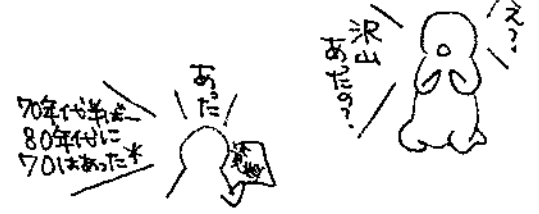
成人学校って
名前が12年
活動しました

テーマいろいろ
おしつけおしじの
お性おあそび
お食生活

なぜ「おさらい」
「おさらい」か?

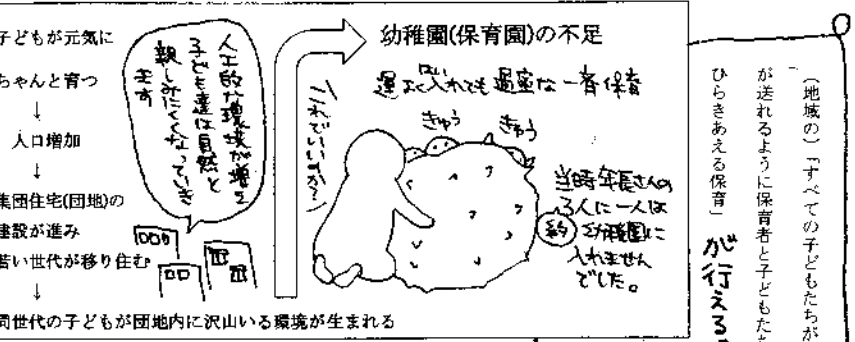
「くるみえん
だけじゃなく」
「いや」
「子どもはなにを
学ぶのか」

実はこの「教室を大人の学びの場にもする」という考え方
くるみえんだけでなく、かつて沢山あった伊勢の幼児教室も
同じでした。



どうしてその頃幼児教室が生まれ、その目的(規約)に「学ぶ」の言葉が
入ったのか。
当時、時代背景を元にごく簡単に説明しますね。

戦後10、20、30年と経った1950-70年、
医療、衛生環境の改善著しかった日本の
人口動態は多産多死型 → 多産少死型 → 少産少死型へと変化します。



「だけ水は作る! 当時の人はかっこいい
ですね。
さて、理想とする保育は国の規定から
外れました。
幼児教室は「自由運営」という道を
まっすぐ進み、こととなります。
幼児教室は

「預ける親と預かっている職員というものが本当に四つに組んで(一部略)子供の保育をどうするか」
[第一回全国幼児教室交流会記念講演より]

を考えられる、既存の園にはない自由さ、ついでに経営面についても
一緒に考えなければならぬ、かっこいいを考えた保育施設となりました。

どんな保育がいいのか考えました。その保育を行うためにどうしたらいいか
学びました。
子どものために、沢山のことを学んだ。そしてこれからは学んでゆこう。
そんな思いから、この「学ぶ」の言葉は長い曲受け継がれ今に至ります。

最初の幼児教室が生まれてから60年近経った現在、この思いを残した
まま保育を続けられている施設はくるみえんを含めわずかとなってしまいました。

時代も家族をとりまく環境も
当時とは変わりました。
くるみえんの体制も変わってゆきます。

それでも今までと同じように、
子ども達が毎日きらきらした目で過
せるように、私達くるみえんにいる大人は
考え、学び、話し合い(時には衝突)
もっていくのだと思います。
そして、そんな大人達も学びを通して
幼児教室にいる子ども達同様
育ち合い、豊かに——それがくるみえん、ひいては
かつて沢山あった幼児教室の願いです。

親だけでなく、園だけでなく、一緒になってこの子を見ていく。そういうつながりを持って
ほしいと思います。十の力を持った一人の大人が関わってもダメ。一の力を持った十人の大
人が関わる。これが、子どもが豊かになるんじゃないかと思えます。(一部略)すべての子供が幸
せになってほしい。そのために子どもを真ん中に置く。どうしたら幸せになるの?考えながら力
を合わせていく。それで十分だとわたしは思っています。 [第40回全国幼児教室交流会記念講演より]

幼児教室も時の流れの中で生きていると思います。運営に携わる母親達の世代も変わり、
幼児教室もそれと共に、母親達がやりやすいように変わっていくのは必然だと思うのです。
始めて入った母親達には、保育の良さは理解できても、自主運営の良さや必要性はわかりに
くいと思います。でもよい保育と自主運営は別個のものではなく、良い保育の土台となるのが
自主運営なのだと思います。私達の子供に良い保育を受けさせたい。そんな願いが満たされる
のが自主運営なのです。今の母親達、またこれからの母親達にも「幼児教室は自分達のものだ」
と胸を張って生きてもらいたいと願っています。 [20周年記念誌より、原文ママ]

編集後記

今回、ニだサ担当

早いもので今年度の「すぐくみえん」
最終号となりました。
毎年のごとくが、年度途中ピンチ
が発生! 予定内容を変更したことも
ありました。今号の「おさらいくるみえん」
本来、9月発行を目指しておりました。
最終号にあたり、ようやくまとめ上げ
たN記者! おつかいさまです。
苦しくてしほりだしてきた言葉たちを
どうぞ受け止めてください。そして、
楽しくなければ「広報じゃない!!」
みんなが笑顔になれる紙面づくりは
委員長が大貢献!! ありがとう。
また来年度、どうなりあか...
お楽しみは...